

執筆要項

— 改訂 2004年5月 —

- (1) 原稿は、数式・図・表も含め、パーソナルコンピュータを用い、可能な限り平易なフォントを用いて作成すること。
- (2) 原稿の分量は、刷り上がり時において、論文・総合報告にあつては32頁以内、ソフトウェア記事については8頁以内を原則とする。
- (3) 原稿作成にあたり、日本語 pL^AT_EX および Microsoft Word のスタイルファイルおよび見本が学会ホームページ上で掲載されているので、原則としてこれに拠ること。
- (4) 提出ファイル中には、以下の事項を必ず含めること。

和文題名、著者名・所属・住所・電子メールアドレス、400字以内の和文要旨、英文タイトル、英語表現による著者名・所属・住所

また、論文・総合報告にあつては、英文要旨(200語以内)と、5個以内の英語のキーワード(Key words)もつけること。ただし、キーワードは英文タイトルと重複しないこと。

- (5) 章、節の番号のつけ方は、第1章にあたるものは1.とし、第1章、第1節にあたるものは1.1とすること。
- (6) 数式はスペースの節約と明快さに心がけること。また、重要な式には(3.1)などのように、章を単位とした数式番号をつけること。
- (7) 参考文献は本文中で言及されたもののみを以下のように書き、欧文文献に関し邦訳のある場合には邦訳も含めること。同一著者による同年発行論文にはa,b,c,...と順序をつけること。なお記載の順序は、著者名に関して欧文文献をアルファベット順に記載し、その後続けて和文文献を五十音順に記載すること。

記載書式 著者名(複数の場合、和文は「・」で、欧文は“,”と“&”でつなぐ)(年号)。題名(書名の場合は斜体。論文誌・予稿集等からの引用は立体)。付随情報(書籍の場合は出版社名などを立体で記載。論文誌等引用の場合は引用元を斜体、それ以外の情報を立体で記載。Volumeは太字で記載のこと)。欧文文献で訳書等がある場合は[]で併記し、[]内の書式も本記載に準じること。

例: Agresti, A. & Yang, M.C. (1987). An empirical investigation of some effects of sparseness in contingency table. *Comp. Statist. & Data Anal.*, 5, 9-21.

例: Gnanadesikan, R. (1977). *Methods for Statistical Data Analysis of Multivariate Observations*. John Wiley & Sons [丘本 正・磯貝恭史 訳(1979). 統計的多変量データ解析. 日科技連].

例: 脇本和昌・後藤昌司・松原義弘(1979). 多変量グラフ解析法. 朝倉書店.

- (8) 本文中での参考文献の引用は、形態に応じ、Gnanadesikan (1977), 脇本 他(1979), (Goodman, 1979a) または (Gnanadesikan, 1977; Goodman, 1979b) 等とすること。

著者が2名の場合、和文は「・」で、欧文は“&”で両名を併記、3名以上の場合、和文は「他」、欧文は *et al.* を用いること。

その他詳細については、採録決定時に送付される「最終稿提出の手引」に従うこと。